



# 鳥取大学産学・地域連携推進たより



2011.春



巻頭言

## 「大学における産学連携の今後」

産学・地域連携機構長  
菅原 一孔

国立大学の法人化を1つの契機として、大学の社会に対する役割に社会貢献が加えられた。その社会貢献の在り方についても様々な取り組みが試みられているが、大学が持つシーズを産業界に還元する活動、いわゆる産学連携はその中心的なものである。偏見を持った言い方との非難を恐れずに述べると、それまで実用化そのものはあまり念頭に置かず、学術的な好奇心により研究活動を行ってきたものを、最終の利用者を念頭に置きながらの研究活動を求められるようになったと言える。そのこと自体はある意味当然のことであり、自身の研究活動がどのような成果を生み出すかを考えずに公費を使って研究を進めること自体あまり褒められたことではない。しかし一方で、この考えが進みすぎることに対して疑問を持つ大学教員も少なくない。事実、大学にとっての産学連携の在り方を見直す動きも出てきている。社会貢献が大学の果たすべき社会的任務に加わったとはいえ、やはり大学の主たる役割は教育や研究活動を通しての人材育成であることに変わりはない。4月から始まる1年間をかけて、どのような教育活動を行うか、あるいは研究活動をどのように進めるかは、かなり緻密に定めている。このことは、スピード感を持った活動を求める産業界には、融通の利かない組織として映っていると思う。よく、大学は敷居が高いとの批判をいただく要因の一部もここにあるかもしれない。我々、産学・地域連携推進機構は学外と学内とのインターフェイスともいえる組織であり、これまで学外のニーズと学内のシーズを結びつける活動を進めてきた。今後はこれに加えて、さらに大学を身近に感じていただき、より上手に大学を使っていただくためにも、あえて、大学ができることとできないことを、学外の方々に理解していただくための活動も進めていく必要があると考えている。



せいが  
未来への菁莪

菁莪とは多くの人材を育てること。菅原一孔機構長の目指される未来。

莪が生えていそうな南部町・鎌倉山を描きました。

(絵：中村宗和名誉教授)

### 行動憲章

私たちは、地域社会から期待される存在となります。  
 私たちは、「利益相反」を克服した産官学連携を推進します。  
 私たちは、連携の実を上げるべく、学外者に対し敬意を持って接します。  
 私たちは、専門領域の異なる人材の幅広い協調を計ります。  
 私たちは、産官学各界が互いに情報を共有するよう努めます。

## ①研究推進に関する事業報告

### 1. 鳥取大学ビジネス交流会（東京地区）【2月25日（金） 開催：CIC 東京】

医農工連携による異分野融合型の研究シーズ第二弾として「鳥取県で漁獲される魚介類のブランド化と未利用資源の有効利用化のための研究」として工学研究科の和泉好計特任教授、産学・地域連携推進機構の清水克彦准教授が魚介類の美味しさや栄養成分の分析、未利用水産資源の有効成分を評価し、生活習慣病予防のための機能性成分を探索するシーズ紹介と「医学と蛋白質工学の融合による神経変性疾患治療法の開発研究」として工学研究科の河田康志教授、医学部の渡辺保裕講師がアルツハイマー病、パーキンソン病など神経変性疾患の原因となる蛋白質を工学的側面から解明し、新治療法にむけての研究を紹介しました。この研究シーズに対して31名の企業等から参加者があり、個別相談も1件実施されました。

### 2. 鳥取大学ビジネス交流会（大阪地区）【3月4日（金） 開催：大阪産業創造館】

東京地区と同様に、医農工連携による異分野融合型の研究シーズとして、農学部の渡邊文雄教授、産学・地域連携推進機構の清水克彦准教授が「鳥取県で漁獲される魚介類のブランド化と未利用資源の有効利用化のための研究」、工学研究科の河田康志教授、医学部の渡辺保裕講師が「医学と蛋白質工学の融合による神経変性疾患治療法の開発研究」のシーズ紹介を行いました。この研究シーズに対して企業等から約50名の出席者で開催され、同時に開催した個別相談会では、魚介類のブランド化と未利用資源の利活用に関して大阪中央卸売市場の鮮魚関係者および鳥取県岩美町関西事務所長とシーズ発表の先生方との最新の現場状況について情報交換が行われました。



### 3. 異分野融合研究の育成支援事業の募集

本事業は平成21年度から開始し、本学における大型プロジェクト研究や大型共同研究に繋がる実践的な研究分野において、学部・学科横断型の異分野融合領域の研究開発を推進する研究グループの創出・育成を支援することを目的としています。この事業では、文字通り異分野融合研究グループに加え、異分野融合を目指す研究グループも育成支援を行っています。異分野融合の研究期間は2年間として総額4,000千円上限の経費を支援しており、企業との共同研究の獲得に向け、産学・地域連携機構の行う様々な産学連携マッチングイベントに参加して頂いております。なお、異分野融合を目指す研究は単年度の1,000千円程度の経費支援を行っています。この事業の募集を12月中旬から1月末に行い、異分野融合研究は13件（継続4件含む）の申請があり、研究リーダー部局の内訳として、農学部4件、工学研究科5件、医学部3件、及び地域学部1件となっており、幅広い分野からの提案がありました。一方で、異分野融合を目指す研究は7件の申請を頂き、異分野融合研究への裾野の広がりを見せつつあります。

### 4. プロジェクト研究員の募集

本事業は、地域産業創出をメインテーマに、研究開発プロジェクト（ベンチャー・ビジネスの萌芽ともなるべき独創的な研究開発）を推進し、高度の専門的職業能力を持つ人材の育成に資するため、専攻分野について高度な研究能力を持つ若手研究者を募集する目的で行われています。本研究員は本学の受入教員を行う独創的且つインパクトのあるテーマに従事するプロジェクト研究員（ポスドク）として1年間任用されます。当該募集において5名の応募があり、その内4名が採用される予定であります。

### 5. 鳥取大学研究シーズ集の募集

産学・地域連携推進機構では、企業との共同研究など外部資金獲得に繋げるため、鳥取大学研究シーズ集2011を発刊に際して、特色のある研究シーズの募集を行いました。鳥取大学研究シーズ2011は、従来から企業にとって興味深い内容に変更し、研究の優位性、応用分野、共同研究先への要望などを追加しシーズ内容を強化しました。また研究シーズを売り込む担当コーディネーターをシーズ毎に配置することにより、企業等との多くの共同研究獲得に向け、リニューアルしております。多くの研究者からのシーズ提案に対して、現在取りまとめ作業を行っており、4月以降からシーズ集の発行、WEB掲載を行う予定です。

## ②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

### 1. 鳥取県産業振興機構新春講演会 【1月19日（水） 開催：米子全日空ホテル】

恒例の新春講演会が開催され、本学能勢学長が「産官学連携における学の役割」と題して講演を行いました。「大学は誰のために、何のためにあるのか」や法人化以降の大学改革の取組み、さらには産官学連携を初めとする地域活性化に向けての大学の支援策等についての学長の講演に、西部地区を中心とする約150名の会員が熱心に耳を傾けていました。

### 2. 鳥取県農林水産部と鳥取大学農学部との連絡会 【1月21日（金） 開催：鳥取県庁】

鳥取県からは鹿田道夫農林水産部長を始め局長・課長など14名、本学からは岩崎正美研究・国際交流担当理事、林喜久治経営担当・地域連携担当理事、中島廣光農学部長など13名が参加しました。

鳥取県からは農林水産部各課の主要施策・中山間地振興の主要施策が報告され、大学からは平成 21 年度農学部基本計画の実施状況・平成 22 年度検討課題及び農学部附属施設の活動状況が報告されました。その後、双方の要望事項について活発な意見交換がなされました。

### 3. 鳥取大学・日南町連携事業：源流シンポジウム 【1月24日(月) 開催：日南町健康福祉センター】

鳥取大学・日南町連携協定 5 周年記念事業の一環として、智頭町・三朝町・日南町の源流 3 町による第 6 回目のシンポジウムが開催されました。基調講演では、鳥大地域学部の永松大准教授から「FSC 森林認証制度による林業再生への展望」と題して講演があり、3 町の町長、永松大准教授、農学部の日置教授によるパネルディスカッションも開催され、過疎・中山間地域の林業が抱える課題等について意見交換が行われました。町民約 80 名が参加しました。



### 4. 第 5 回鳥取県商工会連合会と鳥取大学の連絡会 【1月28日(金) 開催：本学広報センター】

商工分野における一層の連携と理解を深め、担当者同士の情報交換を図るため連絡会を開催しました。この連絡会は平成 19 年度から年 1 回程度開催しているもので、26 名が参加しました。今回の開催テーマは「地域資源の活用」として、本学からは工学研究科の齋本博之教授から「地域資源由来のナノファイバー」及び産学・地域連携推進機構の足森雅己研究員が「ハーブを活用した農医連携」について報告を行うとともに、商工会連合会からは好熱菌、柿、竹等の地域資源を活用した取組事例が報告されました。また、終了後の交流会でも活発な情報交換が行われました。



### 5. 鳥取大学振興協力会 役員会・総会 【1月31日(月) 開催：白兔会館】

平成 23 年度鳥取大学振興協力会役員会、会員総会が開催され、役員の変更、平成 22 年度事業報告・決算および平成 23 年度事業計画・予算が承認されました。記念講演会では、「生活習慣病予防の研究」と題して、本学医学部の黒澤洋一教授が講演を行いました。会員交流会には約 80 名が参加し活発な交流の場となりました。

### 6. 明治大学・鳥取大学合同セミナー 【2月1日(火) 開催：日南町役場】

明治大学・鳥取大学合同セミナー「日南町地域活性化策への提言」が開催されました。この合同セミナーは平成 21 年 2 月に明治大学経営学部の菊地専任講師及びゼミ生が日南町を訪問され、その際に、町民との意見交換の中で町の地域活性化策について提言を頂き、再度、この度の訪問につながったものです。明治大学からは経営学部の菊地端夫専任講師とゼミ生 2 名が、本学からは工学研究科の谷本圭志教授とゼミ生 2 名が参加し、日南町長や町職員、町民らとの意見交換を行いました。日南町版 B 級グルメや町長インタビューの提案など、活発な意見交換となりました。



### 7. 中部地区出前技術講演会 【2月2日(水) 開催：ホテルセントパレス倉吉】

本学の工学研究科の技術・研究シーズを紹介するため、中部地区で講演会を開催しました。本学の工学研究科の谷本圭志教授の「山陰道の開通に伴う沿線地域への影響と活性化方策について」、同研究科の木下健太郎助教の「なぜ次世代不揮発性メモリが必要か」と題した講演に参加者 94 名が耳を傾けていました。講演会終了後、第 22 回中部元気クラブが開催されました。



### 8. とっとり産業フェスティバル 2011 実行委員会 【2月3日(木) 開催：本学広報センター】

平成 23 年度のとっとり産業フェスティバルに向け、第 1 回実行委員会が開催されました。8 月 26 日(金)、27 日(土)に、鳥取県立鳥取産業体育館で開催することが決定されました。また、組織体制、各分野のリーダー、役割分担、今後の日程について決定するとともに、ポスター発表の充実や併催する事業等について検討を行いました。今後は、各分野のリーダーのもと、検討を重ねながら準備を進めていきます。なお同時期に鳥取市で開催予定の第 17 回環日本海拠点都市会議と併催することになりました。

### 9. 宇宙航空技術研究会キックオフセミナー 【2月7日(月) 開催：鳥取商工会議所】

宇宙航空技術研究会キックオフセミナーが開催されました。この研究会は、独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の保有する技術を県内企業等に提供し、民間への移転事業情報を発信するため、産業振興機構、県、産技センター、高等教育機関等で構成するものです。セミナーでは、本県出身の JAXA の遠

藤守理事、財団法人日本宇宙フォーラムの北原正悟理事により講演が行われ、研究会の発足を申し合わせました。

## 10. 南部町企業懇談会 【2月10日(木) 開催：南部町緑水湖研修センター】

南部町企業懇談会に鳥取大学として初めて参加しました。この会は、年一回、町と町内企業とが一室に会し、情報交換を行う場です。誘致企業を中心に17の企業や団体が参加しており、全体の出席者は36名でした。平成22年度からスタートした南部町と鳥取大学の連携事業について、米子地区地域連携部門の足森雅己研究員が報告を行い、今後の連携が発展するよう依頼しました。

## 11. 日南ふれあい人権講座 【2月12日(土)開催：日南町ふれあい会館】

鳥取大学・日南町連携事業として、日南ふれあい人権講座が開催されました。講演では、「医療現場におけるワークライフバランス」と題して、本学医学部附属病院の早川幸子病院長特別補佐が講演し、医療現場におけるワークライフバランスの重要性等について話しました。日南町の町民とは密接なかかわりのある鳥大病院の実態に、参加した町民約40名は熱心に聞き入っていました。



## 12. サイエンス・アカデミー300回記念講演 【2月12日(土) 開催：鳥取県立図書館】

平成7年10月14日の第1回開催以来、15年にわたり継続してきたサイエンス・アカデミーはこの日で300回を迎えました。当日は、講演に先立ち、記念式典として菅原一孔本学産学・地域連携推進機構長の挨拶、真島朋枝図書館副館長による祝辞に続き、長らく司会を務めて来た岡本尚機コーディネーターによる「300回のあゆみ」が紹介されました。記念講演は能勢隆之学長が「健康・医療・子育て」と題して、人の一生にまつわる幅広いテーマをユーモアを交え、分かりやすく講演しました。会場には歴代の地域共同研究センター長にもお越しいただき、盛会となりました。



## 13. 地域医療学シンポジウム 【2月12日(土) 開催：本学医学部】

昨年10月に鳥取大学と鳥取県が共同して医学部に地域医療学講座を設置いたしました。これは地域医療に貢献する人材育成や地域医療の実践、研究・教育を行い、地域医療の向上のために設置されたものです。今回のシンポジウムは、当講座が開設されたのを契機に開催されたものであり、シンポジウムでは、関係者約160名が参加し、県内の地域医療実践例の紹介の他、地域医療学講座の設立の経緯、業務内容の紹介を医学部の谷口晋一教授が行いました。今回のシンポジウムを通して、参加者は地域医療や医学教育について認識を深めました。



## 14. 鳥取市と鳥取大学との意見交換会 【2月14日(月) 開催：本学広報センター】

鳥取大学の地域貢献や産官学連携等について、鳥取市との一層の連携強化を図るため、意見交換会を開催いたしました。今年で4回目となるこの会には鳥取市から竹内功市長や担当部課長、鳥取大学からは能勢隆之学長、理事、副学長等17名が出席し、昨年の課題に対するその後の取組み状況の確認を行いました。その後、本年度のテーマについて活発な意見交換が行われました。主なテーマとして、市からはベンチャー企業の企業支援、環日本海交流の推進、中心市街地の活性化、湖山池の水質浄化の問題等、また本学からは産官学連携について提案しました。

## 15. 日南町 TPP を考える町民集会 【2月27日(日) 開催：日南町総合文化センター】

鳥取大学・日南町連携事業として、TPPを考える町民集会が開催されました。講演では、「TPPとは何か、地域と暮らしを守る展望を考える」と題して、本学の小林一副学長がTPP参加による地域経済、地域農業への影響等について講演しました。感心の高いテーマだけに、参加した約180名の町民は真剣に聞き入っていました。



## 16. 平成22年過疎プロジェクト研究成果報告会 【2月28日(月)開催：南部町役場天萬庁舎】

今回の報告会では、テーマを「持続的な地域づくりと運営方策」と題し、鳥取大学の工学研究科の福山教授、裕見教授、谷本教授が成果報告を行いました。また会の後半では、坂本南部町長、地域振興協議会の原会長及び遠藤会長、県西部総合事務所の林所長と鳥取大学の林理事、3人の発表者が、地域の防災のあり方や公共交通等について意見交換を行いました。約80名の方が熱心に聞き入っていました。



## 17. 鳥取大学・琴浦町連携事業発表会 【3月5日(土) 開催：琴浦町赤崎分庁舎】

今年で4年目を迎えた鳥大と琴浦町の連携事業の発表会が、約150名の参加を得て開催されました。琴浦町では、鳥大との連携事業が年々幅広く、多方面にわたってきています。この日は、2件の鳥取大学地域貢献支援事業、芝リフト機の共同研究、連携事業のあゆみの報告、琴浦食（ショック）コンテストのほか、本学農学部能美誠教授による「これからの日本農業はどう進むのか」～TPPへの参加問題を端緒として～と題した講演に参加者は耳を傾けていました。また、第2部として「TPP問題を考える集会」も開催されました。



## 18. シンポジウム鳥取県西部地震から10年目と新たな災害 【3月5日(土) 開催：本学医学部】

とっとり防災・危機管理研究会では、鳥取県西部地震から10年目を迎え、シンポジウムを開催しました。冒頭、本学の工学研究科の松原雄平会長が、当研究会の目的や活動状況を紹介しました。基調講演は、新型インフルエンザについて本学の医学部の景山誠二教授が、また今冬の記録的な大雪の概要について鳥取地方気象台長の長田芳一氏が行いました。さらに、今回の「豪雪被害と対応」について、鳥取県防災局の城平副局長、米子市防災安全課の王島課長、琴浦町総務課の前田課長をパネラーとして、工学研究科の松見吉晴教授がコーディネーターを担当してパネルディスカッションを行いました。タイムリーなテーマを取り上げたこともあり、聴衆は熱心に聞き入り、多くの報道関係者も詰めかけました。



## 19. 鳥取県竹に関する研究会報告会 【3月6日(日) 開催：とりぎん文化会館】

鳥取県及び鳥取大学における竹利用に関する取組み、学校教育における竹材の利用について報告が行われるとともに、竹ギターを制作されている愛知県の中村正夫氏による講演と竹ギターの演奏会が開催され、約50名が参加しました。また、フリースペースでは、鳥取県木工芸振興会および鳥取大学ものづくりカフェなど、県内外の6企業・団体による竹製品の展示・即売会、パネル展示が行われました。



## 20. JST「ものづくり道場の創設」最終成果報告会 【3月6日(水) 開催：本学工学部大講義室】

JST 地域ネットワーク支援事業に採択されている「ものづくり道場の創設」の最終成果報告会が開催され、約100名の参加がありました。報告会では本学の能勢学長および高橋鳥取県企画部長の挨拶のあと、本事業の代表である地域学部の土井康作教授などから3カ年の事業報告がなされ、またものづくり道場に参加した講師、受講生など関係者から評価・感想の報告がありました。JSTの支援が終了する平成23年度以降の事業は鳥取県、鳥取市、米子市、倉吉市、本学が協力して、事業を継続し、今後更なるものづくり人的ネットワークの拡大と地域の子どもの達へのものづくり体験の場の創出を行うこととしております。



## 21. 日本海水産資源研究会成果発表会 【3月11日(金) 開催：鳥取県水産試験場(境港市)】

設立3年目を迎えた本年は、学内競争的資金「異分野融合研究の支援事業」に採択され、境港の特産である生クロマグロのえら・内臓の有効利用に関する研究を主なテーマとして研究が行われました。グループ代表の和泉和計工学研究科特任教授の挨拶に始まり、医学部、農学部、大学院工学研究科、地域学部、学内共同教育研究施設の教員9名と鳥取県水産試験場石原幸雄室長がそれぞれの専門を生かした機能性成分や美味しさに関わる研究の成果を披露し、続いて、フードコーディネーター河崎妙子氏がクロマグロの肝臓、白子、真子、心臓を材料として調理された創作料理の試食会が行われました。参加していただいた鳥取県農林水産部や境港市の方々、地元の旬の魚を食べる会の方々にも非常に好評をいただきました。



## 22. 鳥取大学・日南町連携事業報告会 【3月12日(土) 開催：日南町役場】

日南町と鳥取大学は平成18年3月に連携協力に関する協定を締結し、鳥取大学の知を活用したまちの活性化に取り組んでいます。平成22年度の連携事業報告会が開催されました。報告会では、本学の林理事から連携事業の報告、さらに農学部の日置佳之教授、医学部の祝部大輔講師、産学・地域連携推進機構の足森雅己研究員からそれぞれ関連事業の報告を行いました。報告会に先立って行われた全体会の基調講演では、本学の中村宗和理事・名誉教授が「地球温暖化と日南町の挑戦」と題した講演があり、参加した町民約200名は熱心に聞き入っていました。



## 23. 第 8 回食品開発と健康に関する研究会 【3月14日(月) 開催：さざんか会館】

食品関連産業の振興を図ることを目的に「健康」をキーワードにした食品開発について、産学官の関係者が意見交換を行う研究会が約 60 名の参加で開催されました。

話題提供として『カニ殻より抽出された極微細繊維「マリナノファイバー」の製造及びその生体機能』と題して工学研究科の伊福伸介講師が、「グルコサミンの生理機構について」と題して甲陽ケミカル株式会社境港研究部長高森吉守氏の講演があり、その後各分科会の本年活動報告がなされ、活発な情報交換がなされました。

## 24. とっとり農商工こらぼ事例報告会 【3月18日(金) 開催：とりぎん文化会館】

鳥取県における地域資源活用・農商工連携の取り組みを促進するため、特に重要度と可能性の高い農産物加工促進、IT・電子・機械化技術活用、植物工場等新生産方式導入検討の3分野について、現状・課題の把握とその解決策を探り、新たなビジネスモデルや取り組みの創出を目指す「こらぼ de ジャンプ」が約 250 名の参加のもと開催されました。

また、文化会館のフリースペースゾーンでは農商工連携・地域資源活用によって生まれた商品の展示試食販売やコンソーシアム活動・研究シーズ等が紹介され、商品開発企業と参加者の間で商品のPRや取引で大変盛り上がりしました。

## 25. 第 5 回とっとり観光振興研究会 【3月22日(火) 開催：本学広報センター】

第 5 回目となる研究会が開催されました。この研究会は、鳥取県の観光資源の掘り起こしや磨きあげなど、県の観光の魅力・知名度を向上させるために県、大学、金融機関等で組織するもので、今回の研究会では、県から委託を受けて実施した地域型観光資源活用事業の報告や本学地域貢献支援事業で実施された倉吉淀屋サミットの取組みについて地域学部の学生が発表し、その後の意見交換会では、来年度の事業計画等について活発な意見交換が行われました。



## 26. ともにまちづくりを考える講演会 【3月22日(火) 開催：琴浦町生涯学習センター】

琴浦町自治基本条例策定委員会の委員を募集するにあたり、町民の皆さんに自治基本条例について広く知ってもらうおうと講演会が開催されました。

講演会では、本学地域学部の相澤直子講師による「自治基本条例は必要ですか？」と題しての講演、役場若手職員でつくる自治基本条例プロジェクトチームによる「これからの自治基本条例の課題」というテーマでの調査報告があり、参加した約 90 名は熱心に聞き入っていました。



## 27. 第 3 回湖山池の浄化及び有効利用に関する連絡会

【3月28日(月) 開催：本学バンチャー・ビジネス・ホール】

鳥取県の東部総合事務所や鳥取大学の関係者ら 25 名が参加して、連絡会が開催されました。県からは、鳥取県と鳥取市で協議している「湖山池会議」の概要、ヒシ除去対策の状況、平成 23 年度事業計画が報告されました。本学からは、工学研究科の福間三喜助教が「ヨシ植栽で効率よく水質浄化できた試験結果」を、嶋尾正行准教授は「湖山池に発生した新型アオコを抑制する研究結果」を紹介し、さらに地域学部の住川英明教授は小学生と湖山池を連想しながら浮かんだ字を書にした取組みを紹介しました。



## 28. 琴浦町産学金官連携情報交換会(鳥取大学振興協力会懇談会)

【3月29日(火) 開催：岩見会館】

第 4 回琴浦町産学金官連携情報交換会(鳥取大学振興協力会町内会員懇談会)が石見会館で開催されました。

情報交換会では、鳥取大学と琴浦町との連携事業報告、鳥取大学振興協力会の活動状況、関西事務所の活動状況、農商工連携の事例報告がおこなわれるなど、産学金官連携の強化について、活発な意見交換が行われました。



### ③知的財産管理運用に関する事業

#### 1. 技術移転に係わる目利き人材育成研修会 【2月4日(金) 開催：鳥取県民ふれあい会館】

本研修会は、JST 主催により、産学官連携を促進する人材の養成を目的として開催し、大学・公設試・金融機関・官公庁等から計 17 名が参加しました。午前中の講義では、「ビジネスモデルの考え方」と題して、(株)イノベーションコンサルティング 橋詰徹氏からビジネスモデルの作り方等について説明がなされ、午後からのグループ実習では、橋詰氏と科学技術振興機構 産学連携アドバイザー 藤川昇氏が進行役を務め、2 グループに分かれて、規格外として廃棄されている「二十世紀梨の有効活用」をテーマとした新たなビジネスモデルを策定しました。



#### 2. 第 5 回経営戦略のできる人材育成のための経営戦略講演会

【2月25日(金) 開催：ピュアリティまきび】

中国地域産学官連携コンソーシアム(さんさんコンソ)主催の「第5回経営戦略講演会」として、「統一テーマ：研究開発・知的財産戦略による地域活性化への糸口」が岡山で開催されました。具体的には、「三菱電機の開発戦略ー連携開発の考え方」として三菱電機株式会社常務執行役開発本部長の堤和彦氏が、「知財戦略と地域の活性化について」として特許庁総務部企画調査課長の後谷陽一氏が、それぞれの立場から地域の活性化について事例を交え講演し、会場に詰めかけた聴衆(59名)から好評を得ました。



#### 3. 山陰発技術シーズ発表会 in 島根 2011 【3月4日(金) 開催：くにびきメッセ】

島根大学主催の「山陰発技術シーズ発表会 in 島根」に、農学部の河野強教授が「遺伝子組換えトラップ植物を用いたネコブセンチュウ防除法の開発」と題して、技術発表を行いました。当発表会には、島根県及び鳥取県に所在する研究機関が一室にそのシーズを発表し、更なる山陰の活性化に向け、70名の企業及び関係機関との活発な意見交換が行われました。



#### 4. 講演会「コーディネーターの連携による山陰地域活性化の道筋」

【3月10日(木) 開催：ホテルニューオータニ鳥取】

本講演会は、「文部科学省 イノベーションシステム整備事業 大学等産学官連携自立化促進プログラム【コーディネーター支援型】」の一環として開催しました。島根大学 産学連携センター長 大庭卓也氏からは、「たたらが開く日本の技術と産学連携」、(株)一畑百貨店 常務取締役 坂本仁彦氏からは、「百貨店ビジネスから考える、商品企画と顧客とのコーディネート」～産学官連携事業へ百貨店はどの様に携われるのか～と題して講演がなされました。県内の産学官連携に携わるコーディネーターを中心に注目を集め、当日は53名の参加者がありました。本学においても、コーディネーター間の連携を図るべき課題を、改めて認識することができた講演会でした。



#### 5. さんさんコンソ外部評価委員会 【3月29日(火) 開催：ホテルニューオータニ鳥取】

中国地域産学官連携コンソーシアム(さんさんコンソ)の平成22年度下期の外部評価委員会が3月29日(火)に、ホテルニューオータニ鳥取で開催されました。本会議では、さんさんコンソ事務局から平成22年度の活動報告と平成23年度の計画説明、および「さんさんコンソ」の抱える課題について討論がなされました。会議では、外部評価委員からの意見・質問を頂くと共に、「さんさんコンソ」の活動を成功させるための活発な討論が行われ、貴重な会議となりました。

(4-7月)『人にやさしい先進的医療による地域貢献』シリーズ

月 日	テ ー マ (内 容)	講 師	所 属	
4月9日	我々が行っている泌尿器科先進的治療あれこれ-ロボット手術と放射線体内埋め込み治療を中心に-	武中 篤	泌尿器科	科長
4月23日	耳鼻咽喉科・頭頸部外科の最新医療	長谷川 賢作	耳鼻咽喉科	副科長
5月14日	最新の放射線治療	小谷 和彦	放射線治療科	科長
5月28日	QOL向上を目指したがん医療	紀川 純三	がんセンター	センター長
6月11日	胸部外科におけるダ・ヴィンチS	中村 廣繁	胸部外科	科長
6月25日	放射線科における低侵襲治療	神納 敏夫	放射線科	科長
7月9日	心臓血管外科における低侵襲治療	西村 元延	心臓血管外科	科長
7月23日	ロボットを使った産婦人科の低侵襲手術(身体に優しい手術)	原田 省	女性診療科	科長

(8月以降)『山陰海岸ジオパーク』シリーズ

月 日	テ ー マ (内 容)	講 師	所 属	
8月27日	山陰海岸ジオパークの概要と認定へのプロセス	西田 良平	放送大学鳥取学習センター 所長、鳥取大学名誉教授	
9月10日	ジオパーク認定の先人たち	赤木 三郎	鳥取大学名誉教授	
9月24日	岩美・但馬西部地域のジオスポット	依藤 英徳	環境省自然公園指導員 元県立高等学校教員	

とっとり駅南教室

月 日	講 師	学 部 等	講 話
4月2日	ファイナンシャルアドバイザー - 中嶋 智正	野村證券 米子支店	私たちの暮らしとお金を考える -自己責任時代のマネープランと人生設計- ①株式投資の基礎の基礎
4月16日	ファイナンシャルアドバイザー - 中嶋 智正	野村證券 米子支店	私たちの暮らしとお金を考える -自己責任時代のマネープランと人生設計- ②株式投資の基礎
5月7日	ファイナンシャルアドバイザー - 砂原 孝司	野村證券 米子支店	私たちの暮らしとお金を考える -自己責任時代のマネープランと人生設計- ③債券投資の基礎の基礎
5月21日	ファイナンシャルアドバイザー - 砂原 孝司	野村證券 米子支店	私たちの暮らしとお金を考える -自己責任時代のマネープランと人生設計- ④債券投資の基礎
6月4日	ファイナンシャルアドバイザー - 福本 直樹	野村證券 米子支店	私たちの暮らしとお金を考える -自己責任時代のマネープランと人生設計- ⑤投資信託の基礎の基礎
6月18日	ファイナンシャルアドバイザー - 福本 直樹	野村證券 米子支店	私たちの暮らしとお金を考える -自己責任時代のマネープランと人生設計- ⑥投資信託の基礎
7月2日	助教 谷口 美也子	医学部	「認知症について」～早期発見と予防へ向けて
8月6日	准教授 竹森 史暁	工学研究科	「人の生活を支援するロボットシステム」
9月3日	教授 竹内 崇	農学部	「関節炎に対するラクトフェリンの効用」
10月1日	教授 石谷 孝二	地域学部	「彫刻の話し(仮)」